

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・村学力調査の問題内容では、「文章を書く」の目標値55%に対して、校内正答率25%だった。・村学力調査の問題内容では、「文法・語句に関する事項」の目標値51.7%に対して、校内正答率33.3%だった。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・「漢字を書く」「言葉の学習」「文章を書く」項目で全校平均正答率を下回っている。このことから既習事項の漢字や言葉の習熟が不十分であることが分かった。また、「文章を書く」問題については、指定された条件の作文を短時間で書く活動が不十分であったと考える。・「文法・語句に関する事項」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・たくさんの文章に触れさせ、真似させている。時間を設定して書く時間をたくさん作り、書くことに慣れさせる。・推敲させた文章を添削し、間違いを自分自身で直させている。日常生活での活用方法を教え、今後の生活に生かせるように学ばせる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①作文を書く活動を計画的に実施し、良い作文を真似させ、型をつくっていく。②辞書をこまめに引かせ、正しい言葉を使わせる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①定期テストや授業内の作文で正しく書けているか確認する。②授業プリント等で確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 社会科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的知識の習得 ・ 知識を活用した表現力の向上 <p>例1 全国平均より少し下回っている。特に「我が国の歴史」の領域が大きく下回っているため、課題があるといえる。(令和7年度 村学力調査の結果 参照)</p> <p>例2 令和7年度本校1学年対象教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」 ⇒ 「あてはまる」「だいたいあてはまる」 100% (2名中 2名)</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【現状と課題】 複数の資料をもとに判断する問題で誤答を選択した児童が多かった。図や絵の資料ではなく、文章で書かれた資料の読み取りに課題がある。 → この結果に対して、まずは基本的知識の習得を目指し、それを用いた表現力の向上を図っていく。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 社会科として重要視している、多面的・多角的な深い学びを得られる授業構成により、表現力を伸長させていく。(この表現力を『できる』力と定義する) 以下、方策に記す。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①小單元ごとに複数の資料を活用し、多面的・多角的な感性と表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題の評価(第二観点 A~C以下)について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析(目標値は平均値B以上)</p> <p>②後期授業評価アンケートの結果分析(目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】 100%)</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 数学科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>1年生の数学を見ると、全国平均よりも上回っている。特に活用の問題では大きく上回っているものの基礎的な内容で平均を下回っている。良好な状況であるが、データの活用の領域に関しては、特にグラフの読み取りに関して課題があるため、他の得意領域とバランスを取りながら取り組む必要がある。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の学級平均正答率は67.5%（基礎73.3%，活用56.4%）と目標値（64.8%），全国平均正答率（67.1）より高い。 ・小数と分数の問題の正答率が低かった。数直線を使用した数の理解が不十分であることが分かった。 ・わり算・計算のきまりに関する問題にも課題が見られた。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文字と式」の単元において、自力解決で行う問題演習の前に、クイズ形式での理解を促す計算トレーニング。 ・1次方程式の単元において、ホワイトボードやICT機器を使用した教え合い活動。 ・ICT機器（関数グラフソフトGRAPE S）を活用したグラフの読み取り・作成。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>
<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 令和7年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食物連鎖」の正答率は0%であった。また「植物のつくりとはたらき」の正答率は50%を下回った。どちらも生物分野における基礎知識の定着が課題である。 ・表から数値を読み取る問いに関しては、課題が見られる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験の結果を根拠として説明できていないことが、誤答分析から明らかになった。学習した知識を使って論理的に思考し、自分の考えを簡潔に分かりやすく表現する力を高めることが、今後の課題である。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用しモデル実験や図、映像資料を使い、主体的に考える学習活動を充実させる。 ・小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」の定着を図る。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①個々の能力に応じた復習問題を補充するためにタブレット端末を活用した学習活動を充実させる。</p> <p>②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」を定着させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。</p> <p>②年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施し、内容を分析する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①個々の能力に応じた復習問題を補充するためにタブレット端末を活用した学習活動を充実させる。</p> <p>②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」を定着させる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。</p> <p>②年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施し、内容を分析する。</p>
<p><方策></p> <p>①個々の能力に応じた復習問題を補充するためにタブレット端末を活用した学習活動を充実させる。</p> <p>②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」を定着させる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。</p> <p>②年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施し、内容を分析する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 音楽科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・授業アンケートの結果から、ほとんどの項目について「A」が付いているが、学習の理解度と、グループ活動の充実については「B」という結果だった。このことから、個人レッスン、全体指導、グループワークのバランスをもう一度見直し、題材や生徒の実態に合わせた適切なアプローチについて再考する必要がある。また「できる」を体感させるために、スモールステップの学習及び評価に加え、学習目標をより明確にし「良い演奏とは何か」をきちんと提示していく。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

・「歌唱分野」における「声量」の課題について。基礎的な発声法や変声期における喉のコントロールなど、技術面を中心に個人レッスン形式と全体指導を織り交ぜながら指導をしている。徐々にではあるが、個々の得意な音域内において、のびやかな歌声を出せるようになってきている。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・学習活動には前向きに取り組む姿勢が見られるが、表現活動において自信の無さが見られる。特に今年度新しく始めたクラシックギターの活動で顕著に見られるため、1の課題で述べた通り、適宜スモールステップの学習と評価を行う。また演奏発表では個別の演奏だけではなく複数人によるアンサンブルを通して、演奏に対する自信をつけさせていく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①個別指導の充実

②活動の振り返り

③期末考査の分析を行う。

＜検証方法＞

①良い点、課題を明確にし、次に目指すべき目標を明確に提示する。

②授業観察やワークシートの記述等から、授業内容をふり振り返り、次時に生かす。

③期末考査の分析を実施し、授業改善に生かす。

4. 検証結果(成果と課題)

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 美術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <p>自ら主題を生み出したり自分らしい表現を見付けたりすることができる生徒ばかりだが、表現したいことを実現するための技能の習得と向上に苦戦する場面が多いことが課題。知識や技能の地道な習得と、自身の意欲や主体性によって積み重ねたことが成果として表れ、生徒自身が成長を実感できるような授業づくりをしていく必要がある。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <p>授業への興味・関心が高く学習内容も定着していると考えられるが、個々の能力差があり、時間配分への意識が弱い面が見られるので授業者側の働きかけに工夫が必要である。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習内容や経験、技能等を総合的に生かしたり、材料や技法を組み合わせたりするなどして応用的な活動に取り組む授業を行う。 ・タブレット端末を活用して活動や作品の記録、まとめ、発表、振り返りを行うことで自分の活動や制作の進捗をメタ認知しながら、よりよい表現活動につなげる授業の構成を継続する。 <p>【評価】</p> <p>生徒自身が得意と不得意を自認しながら、これまでの経験や既習事項をどのように生かすか、また自分が新たに身に付けるべき知識や技能は何かを主体的に考え行動しようとする姿勢が見られ、自ら能力を伸ばしながら与えられた時間内に課題を解決しようとする意識付けができています。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>題材ごとの導入を丁寧に行い、スモールステップの設定と毎時の目標を細分化している。また、振り返りワークシートを用いて目標の達成に対する自己評価を行い、次回の自分に向けての覚え書きを残すなど、主体的に取り組みを継続できるようフィードバックも充実させながらルーティンを作っている。また、アイデアの共有や中間発表での意見交換など、協働的な学びの場を設定している。</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>＜課題＞</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p>			

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 技術科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識・技能の習熟で生徒に適した指導を行う必要がある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容(別学年の中1内容記載)</p> <ul style="list-style-type: none">・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。・ノート、ワークシート、事前学習プリントを用いて知識の定着を図る。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りに教師がコメントを返し、授業の理解度を深める。・ノート、ワークシート、事前学習プリントを用いて知識・技能の定着を図る。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②ノートやワークシートで課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・ <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 家庭科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題	
・既習事項を活用しながら自身の考えをまとめ、具体的に表現すること。	
2. 課題改善に向けた取組状況	
(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容	
「基礎的な知識や技能の定着」、「生活をよりよく改善しようとする意識」が課題として挙げられる。その授業改善策として、自身の生活を振り返る時間を設けICT機器の活用や体験的な活動を取り入れながら、考えを深められるような授業構築を行い、既習事項を活かし生活をよりよく改善しようという意識を高められるように個に応じた適切な支援を行った。その結果として、体験的な活動を通して実生活と結び付けて考えられるようになり、既習事項をもとに実際に自身生活の中で生かそうとする機会が増えたようである。	
(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等	
・基礎的な知識が定着しているかを確認するために、復習として副教材を活用している。また、既習事項を活かしながら考える授業内課題などを用いて、具体的に表現する機会を増やしている。	
・ICT機器を使用した振り返りシートを活用し、基礎的な知識と実生活での結び付きに注目させながら、振り返ることができるように教師がコメントを返す。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法	
<方策>	<検証方法>
①基礎的な知識の定着を図るために繰り返し授業内で用語を使用したり、副教材で確認したりする。	①ワークシート、授業の振り返り、課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート
②既習事項を活用して自身の考えや意見をまとめる授業内課題や個に応じた適切な支援を行う。	②ワークシート、授業の振り返り、授業内での課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート
4. 検証結果(成果と課題)	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項
<成果>	
<課題>	
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 外国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和7年度村学力調査結果から次のことが挙げられる。

- ・音声を聞き、活字体でアルファベットを解答する問題で目標値より20ポイント校内正答率が低かった。
- ・必要な情報を読み取り、紹介文の形式に合わせて英語で解答する問題で、クラス内の正答率は全国平均よりもやや低かった。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「聞くこと」に関する課題として「長文がテストで流れた際に、何について話しているのか理解が間に合わなくなることがある。1文の細切れで再度流すと理解することができる。」と記載され、方策として、「ALTに速度を遅くして長文を音読してもらい、理解度を高める。」と挙げている。検証結果として「2回の再生で聞き取れない場合に、ALTに音読を依頼すると児童は内容を聞き取ることができた。」という成果が得られている。
- ・「読むこと」に関する記載なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・音声を聞く際に、1文の細切れで音声を流し、復唱する練習を実践。
- ・授業で英語ノートを使用し、正しくアルファベットを書けるように練習する。
- ・代名詞に注目して文章を読み、情報を整理しながら読む練習を授業内で実践。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

①英語を書く際に、適切にアルファベットを書けているか、複数形や三人称単数現在等の細やかな文法に意識をするよう指導する。

②代名詞や指示語を意識して文章を読むよう指導する。

〈検証方法〉

①ノート・ワークシート回収

②音読時、発問にて確認

4. 検証結果(成果と課題)

〈成果〉

〈課題〉

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 国語科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・村学力調査の領域別正答率では、「話すこと・聞くこと」の目標値 68.3%に対して、校内正答率 50%だった。・村学力調査の問題内容では、「漢字を書く」の目標値 56.7%に対して、校内正答率 50%だった	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・「話すこと・聞くこと」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。・令和5年度1学期の段階では、第5学年までの既習漢字の定着率の低さが見られた。また、夏季休業明けには第6学年1学期学習の漢字も忘れてしまっていることが予想される。漢字の確実な定着に課題があると考えられる。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・話し合い活動を多く取り入れ、他者の意見をメモすること、自分の意見を言葉にすることを意識させている。・漢字練習プリントの配布やわからない漢字は調べさせ、漢字にたくさん触れさせている。漢字を調べる際、国語辞典で調べさせる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①話し合いのポイントを考えながら実践させる。②週1回の漢字小テスト前にプリント学習をさせる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①提出物，聞き取りテスト②漢字の小テスト，定期テスト
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を活用した表現力の向上 <p>例1 全国平均より上回っている。ただし、「世界の諸地域」の問題では全国平均を下回り、「飛鳥時代から平安時代」の問題ではとても低い正答率である。今後の課題改善の取組が必要である。（令和7年度 小笠原村学力調査の結果 参照）</p> <p>例2 令和7年度本校教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」について、「あてはまる」「だいたいあてはまる」100%（1名中1名）</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>令和5年5月実施の村学力調査では、「文章を書く」内容の問題がいずれも正答率0%という結果だった。したがって、文章を書くことに課題があると考えられる。4月実施の全国学力調査でも、同様の結果となった。⇒引き続き令和7年度の授業改善に活かしていく。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <p>今年度は、社会科として重要視している、多面的・多角的な深い学びを得られる授業構成により、表現力（文章構成など）を伸長させていく。（この表現力を『できる』力と定義する） 以下、方策に記す。【以上、特に歴史分野】</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①小單元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p> <p>③上記（2）の工夫を実践する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①課題の評価（第二観点 A～C以下）について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析（目標値は平均値B以上） 【歴史分野】</p> <p>②・③に共通して 後期授業評価アンケートの結果分析（目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%）</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①小單元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p> <p>③上記（2）の工夫を実践する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題の評価（第二観点 A～C以下）について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析（目標値は平均値B以上） 【歴史分野】</p> <p>②・③に共通して 後期授業評価アンケートの結果分析（目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%）</p>
<p><方策></p> <p>①小單元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p> <p>③上記（2）の工夫を実践する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題の評価（第二観点 A～C以下）について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析（目標値は平均値B以上） 【歴史分野】</p> <p>②・③に共通して 後期授業評価アンケートの結果分析（目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%）</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 数学科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>2年生の数学を見ると、全国平均大きく上回っていて良好な状況である。データの活用の領域については、全国平均を下回っており、課題である。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年5月実施の村学力調査では、「整数のなかま分け」「単位量あたりの大きさ」「多角形の内角の和の求め方を説明する」内容の問題がいずれも正答率0%という結果だった。第6学年以降の算数の学習においてもつながる内容であるため、確実に定着させることが必要となる。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎単元に自力解決で行う問題演習の前に、クイズ形式での理解を促す計算トレーニング。 「連立方程式」の単元において、ICT機器を使用した教え合い活動。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>
<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <p>令和7年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・「火山」「地層」分野全体での正答率は40%を下回った。基礎知識の定着が課題である。・「光の性質」分野全体での正答率は40%を下回った。作図をして解答する問いに関しては、課題が見られる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の学力調査の結果は、校内平均正答率が88.3%で、全国平均の66.1%を大きく上回る状況である。しかしながら、「けんび鏡の使い方」の短答問題(校内平均正答率0% 全国平均正答率26.1%)、「植物の発芽と成長」の選択問題(校内平均正答率0% 全国平均正答率16.0%)に課題が見られた。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・地球分野は中学校1年生で学習しているので、個々の能力に応じた復習問題を補充する。中学校2年生で学習する地球分野においても、タブレット端末を活用しモデル実験や図、映像資料を使い、主体的に考える学習活動を充実させる。・小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」の定着を図る。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①個々の能力に応じた復習問題を補充するためにタブレット端末を活用した学習活動を充実させる。②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」を定着させる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。②年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施し、内容を分析する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <p>授業評価アンケートでは授業に対する理解に関する項目のみ「B」であり、他は全て「A」という結果となった。音楽活動への取り組みは意欲的であり、歌唱技能は高いものを持っている。しかし自ら立てた学習計画に基づいた取り組みについては課題がみられ、器楽の練習方法や鑑賞の記述が不十分であることが多い。それぞれの活動に対し、丁寧かつ粘り強く取り組むための方策が必要である。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・「基礎的な学力」の定着については改善が見られ、1学期の定期考査の点数も良好である。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・1の課題で述べた通り、計画的に学習を進めることに課題があり、そのことによって、本来発揮できる能力を十分に生かせないことが多い。学習目標を明確にして、それに向けた活動を支援していく。特に「～分までに」「～を」「～の回数行う」といったように可能な限り活動に関する項目を数値化し、時間内にきちんと達成する力を育成していく。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①毎時の課題を明確にし、時間内に達成できるように促す。②学習資料の充実	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①ワークシート，授業展開の工夫②題材に適した資料を複数配布し、主体的に調べながら学習に取り組めるか確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 美術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <p>課題に取り組むという意識が低く、設定された活動を能動的に楽しんでおり、意欲は自らの興味・関心に左右される傾向が強いため、自ら主題を定めてゴールを設定したり逆算した過程を組み立てたりする経験を積み、課題解決に主体的に取り組む姿勢や自己調整力を身に付けることが課題。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <p>授業アンケートの結果より、授業への興味・関心は高いが、学習内容の確実な定着については、授業者と児童の認識に乖離があるため、改善を図る必要がある。</p> <p>【改善策】</p> <p>表現活動を楽しむことだけに注力する傾向があるため、毎回の振り返りの時間が充実するように声かけを行い、「何を発見したか?」、「どこをどのように工夫したか?」「次はどうしたいか?」などを一つ一つ問いかけ、考えながら書く時間を取っている。</p> <p>【評価】</p> <p>ただ活動を楽しむだけで終わらずに、活動を振り返って自己評価ができるようになってきている。本時の振り返りと自己評価を次回につなげたり前回からつなげたりする意識が具体的な行動や発言としては表出していないため、授業の導入とまとめの時間における声かけやワークシートの工夫など具体的な支援が必要である。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品制作の中間発表とグループでの鑑賞活動を行い、協働的な学びの場を設けて互いの作品のブラッシュアップの機会を増やしている。 ・題材ごとの導入を丁寧に行い、スモールステップの設定と毎時の目標を細分化している。また、振り返りワークシートを用いて目標の達成に対する自己評価を行い、次回の自分に向けての覚え書きを残すなど、主体的に取り組みを継続できるようフィードバックも充実させながらルーティンを作っている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>
<p><方策></p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 保健体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>授業評価アンケートの結果より、「どんな力を身に付けたいか」という質問について、「運動の方法やその効果についての正しい知識」という回答が出ている。新体力テストの結果で全国平均を下回る種目が5つあることから、新体力テストのテスト種目と授業とを結びつけながら生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成していくことが課題である。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストでは、全国平均を下回る種目が散見される。体力の向上を図るとともに、運動習慣の確立が必要である。 →単元に応じた補強運動を設定し、年間を通して体力の向上に努めている。 ・授業の観察から、運動課題への不安が強いと取り組むまでに時間がかかる。苦手な児童ほど試行回数が減り、成長速度が遅れてしまうことが課題である。 →個々の体力や技能に応じた課題・ルールを設定し、児童が自己の目標をもって取り組むことができるようにしている。運動の特性に応じた楽しさを味わい、実践する意欲を育てている。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能の習得に繋がる補強運動を設定し、単元に応じた技能の習得を目指す。 ・学ぶ内容の全体像や授業の流れ、技能の習得方法を示す際に、言葉だけではなく視覚的な手がかりやICT機器を活用する。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。</p> <p>②単元の全体像や学ぶ内容の重要事項やポイント、前時との関係性が分かるように板書やワークシート、スライドを活用する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②スプレッドシートで授業内容の理解度を確認・分析。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。</p> <p>②単元の全体像や学ぶ内容の重要事項やポイント、前時との関係性が分かるように板書やワークシート、スライドを活用する。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②スプレッドシートで授業内容の理解度を確認・分析。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。</p> <p>②単元の全体像や学ぶ内容の重要事項やポイント、前時との関係性が分かるように板書やワークシート、スライドを活用する。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②スプレッドシートで授業内容の理解度を確認・分析。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>＜課題＞</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p>			

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 技術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。
- ・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識の観点で差が出てくる生徒がいる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容(別学年の中2内容記載)

- ・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りを学校でできるようにする。
- ・グループワークを取り入れ、学び合いを活発化させることで知識・技能の習熟を図る。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りに教師がコメントを返し、授業の理解度を深める。
- ・事前学習プリントやレポート課題を通して、苦手である知識の定着を図る。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ① 生徒の振り返りに合わせて、教師が意図的に知識の定着を図れるようなコメントを記入する。
- ② レポートとその解説を通して、知識の定着を図る。

<検証方法>

- ①課題, 考査, 授業評価アンケート
- ②課題, 考査, 授業評価アンケート

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

・

<課題>

・

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・題材に対する興味関心に差があり、消極的になってしまうこと。・既習事項を活用し、自身の生活と結び付けて考えながら具体的に表現すること。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>「既習事項をもとに自身の意見や考えをまとめ、相手に分かりやすく伝えること」が課題として挙げられている。その授業改善策として実習や実践的な活動の機会を増やし、学習をまとめることで自身の考えを深めることができたようである。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・実習や実験などの実践的で体験的な活動の機会やICT機器を活用しながら視覚教材を増やし、興味関心を高めている。・実習や製作の記録課題や毎授業の振り返りを用いて、自分の考えや意見を具体的に表現する機会を増やしている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①体験的な活動や視覚教材を活用しながら、興味関心を高める。</p> <p>②既習事項の活用を意識した声かけと個に応じた適切な支援。</p>	<p><検証方法></p> <p>①授業の振り返り、課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート</p> <p>②ワークシート、授業の振り返り、授業内での課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>①</p> <p>②</p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 外国語科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

令和7年度村学力調査結果から次のことが挙げられる。

- ・「書くこと」における、校内正答率が目標値よりも14.0%低く、問題の内容別評価と正答率では、「場面に応じて書く英作文」、「情報に基づいて書く英作文」、「春休みにしたことについての英作文」が他の問題に比べて正答率が低い。また、観点別評価の正答率では、知識・技能は目標値を6.9%上回っているが、思考・判断・表現では、目標値を下回っている。以上のことから、学んだことを活用したり、自身の意見や体験を英語で表現したりすることに課題が見られる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「書くこと」に関する記載なし。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・「書くこと」や「話すこと」の活動の際に、分からない単語や表現方法が出てきた際には、調べる手立てを伝え、調べたり活用したりする時間を設ける。
- ・自身の考えや体験を英語で表現する際には、事前に表に整理したり、箇条書きでアイデアを書き出したりする時間を設ける。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

①教科書の各ユニット末についている表現活動を実践し、学んだことを活用する時間を設ける。

②「書くこと」、「話すこと」を行った後には良かった点、次に生かせるアドバイスを指導する。

<検証方法>

①ノート、ワークシートの回収

②各ユニットでの生徒の取り組み方、様子の違いを評価

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

・

・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・村学力調査の領域別正答率では、「情報の扱い方に関する事項」の目標値75%に対して、校内正答率50%だった。
- ・全国学力調査の問題内容では、「話すこと・聞くこと」の全国平均正答率55%に対して25%だった。
- ・全国学力調査の問題内容では、「書くこと」の全国平均正答率56%に対して40%だった。

2. 過大改善に向けた取り組み状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「情報の扱い方に関する事項」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。
- ・「話すこと・聞くこと」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。
- ・「書くこと」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・情報の読み取り方の授業や調べ学習等を通して正しい情報の読み取り方を実践させている。
- ・話し合い活動を多く取り入れ、他者の意見をメモすること、自分の意見を言葉にすることを意識させている。
- ・たくさんの文章に触れさせ、真似させている。時間を設定して書く時間をたくさん作り、書くことに慣れさせる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①読み取ったことを端的にまとめさせる。
- ②話し合いのポイントを考えながら実践させる。
- ③作文を書く活動を計画的に実施し、良い作文を真似させ、型をつくっていく。

<検証方法>

- ①提出物
- ②提出物、聞き取りテスト
- ③定期テストや授業内の作文で正しく書けているか確認する。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を活用した表現力の向上 <p>例1 すべての領域において全国平均よりも上回っており、良好な状況といえる。しかし「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」の問題と「明治時代」の問題では全国平均を下回っている。 (令和7年度 小笠原村学力調査の結果 参照)</p> <p>例2 令和7年度本校教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」について、「あてはまる」「だいたいあてはまる」 約50% (4名中 2名)</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>歴史的分野、特に近代から現代史の範囲の理解度に課題がある。</p> <p>例1 ・「日本国憲法」の内容について (正答率41.7% 令和5年度 村学力調査の結果 参照)</p> <p>例2 ・令和5年度本校1学年対象教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」 ⇒「だいたいあてはまる」 100% (4名中 4名)</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>上記解決すべき課題に記したように、まずは知識理解を促す必要がある。そのため、以下に記す方策を実施し、「わかる」⇒「できる」という順序で授業実践を行っていく。</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①基礎知識を問う小テストを実施する。</p> <p>②小单元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>③後期授業評価アンケートを実施する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①テスト結果を分析する。</p> <p>②課題の評価(第二観点 A~C以下)について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析 (目標値は平均値B以上)</p> <p>③後期授業評価アンケートの結果分析 (目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】 100%)</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①基礎知識を問う小テストを実施する。</p> <p>②小单元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>③後期授業評価アンケートを実施する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①テスト結果を分析する。</p> <p>②課題の評価(第二観点 A~C以下)について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析 (目標値は平均値B以上)</p> <p>③後期授業評価アンケートの結果分析 (目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】 100%)</p>
<p><方策></p> <p>①基礎知識を問う小テストを実施する。</p> <p>②小单元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>③後期授業評価アンケートを実施する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①テスト結果を分析する。</p> <p>②課題の評価(第二観点 A~C以下)について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析 (目標値は平均値B以上)</p> <p>③後期授業評価アンケートの結果分析 (目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】 100%)</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 数学科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>3年生の数学を見ると、全国平均を大きく上回っており、良好な状況である。特に昨年度の課題であった証明の内容については、問題文を読むという苦手意識もあり、正答率が低かったが全国平均は越えることができた。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生の数学を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況であるが、問題の内容は、「百分率」と「面積と体積」に課題があるといえる。特に「百分率」などの割合に関する計算方法はどの単元にも必要となるため、復習が必要である。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 「展開・因数分解」の単元において、記述しながらの演習の前にクイズ形式での理解を促す計算トレーニング。 関数の単元でICT機器を活用した教え合い活動。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>
<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 理科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

令和7年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。

- ・「電流の性質」「電流と磁界」分野全体の正答率は50%を下回った。また「気象の観測」における気圧の計算では正答率は0%と突出して低かった。
- ・数値計算、表等の資料を読み取る問いに関しては、全般的に課題が見られる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「水よう液の性質」「てこのはたらき」の正答率は40%を下回った。どちらも基礎知識の定着が課題である。
- ・会話文やまとめられた図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。
- ・「活用」の正答率が36.7%であり、日常生活と知識の関連付けが課題である。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・「電流の正体」における数値計算は復習として、3年間の復習教材を個々の能力に応じ補充する。
- ・高校入試対策問題から思考・応用する問題演習に取り組むことで、表やグラフ等の資料を読み取る力を身に付ける。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ① 3年間の復習教材を個々の能力に応じ補充する。
- ② 高校入試対策問題から思考・応用する問題演習に取り組むことで、活用を身に付ける。

<検証方法>

- ① 年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。
- ② 年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施した内容を分析する。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

授業評価アンケートの興味・関心の部分に関しては全員Aの当てはまるとなっているが、学習の理解に関する項目にはBが付けられている。実際の活動では全体として理解度も高く、前向きに学習に取り組んでいるように見られるが、表現することに対していくらかの自信のなさが見られる。特に「完璧に演奏しなければならない」といった思いが強く見られ「ここまでできた」ではなく「まだここができていない」という思いの方が強く出てしまう傾向がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

「作曲者視点の立場にたった歌唱指導」の成果から、楽曲の歴史的背景や作曲者の思いなどを考えながら記述したり、表現できるようになってきている。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

歌唱・器楽・創作・鑑賞のすべての領域において、自己評価及び次の課題を記述する活動を取り入れ、次の活動に生かす。また『できる』と判断される演奏例や記述例を適宜提示しながら、演奏発表という目標に向かって主体的、かつ計画的に学習に取り組む仕組みを作る。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①授業内の実技発表を実施する
- ②アンケートを実施する。

＜検証方法＞

- ①授業内での実技発表の分析
- ②授業内アンケート結果の分析

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 美術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <p>課題への取組の中でこれまでの経験を生かすことができないわけではないが、目の前にある課題と既習事項や経験との結びつきに自ら気づくことが難しいため、体系的にとらえる視点を身に付けていくことが課題。また、自己調整力やより汎用的な課題解決の力を磨いていくことも課題である。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <p>授業評価アンケートの結果より、授業への興味・関心は高いといえるが、学習内容の理解や確実な定着については課題が見られる。</p> <p>【改善策】</p> <p>「表現したい」という欲求がとても強いため、どのように表現するかを深く考えさせる構成でワークシートを活用してイメージや工程を整理したり図示したりする。自身の感覚や気持ちを大切に、発想を刺激し合いながらグループでよりよい表現について考える場を設定する。</p> <p>【評価】</p> <p>表現活動に意欲的で授業内のすべての活動に真摯に取り組む姿勢が見られ、与えられた課題も細分化されたステップごとに解決していこうとする意識が高いため、成果が作品に顕著に表れている。また鑑賞活動がよりよい表現に結び付くという意識をもって取り組むことができおり、これらの経験が体系的に結び付いてより汎用的な課題解決力を養っていけるよう意図した授業改善を継続していく。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品制作の中間発表とグループでの鑑賞活動を継続して行い、協働的な学びの場を設けて多面的・多角的な視点で思考する経験を積み重ねている。 ・題材ごとの導入を丁寧に行い、スモールステップの設定と毎時の目標を細分化している。また、振り返りワークシートを用いて目標の達成に対する自己評価を行い、次回の自分に向けての覚え書きを残すなど、主体的に取り組みを継続できるようフィードバックも充実させながらルーティンを作り、こまめなリマインドを欠かさないようにしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>
<p><方策></p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 技術科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。 ・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識・技能の観点で差が出てくる生徒がいる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。 ・ノート、ワークシート、事前学習プリントを用いて知識の定着を図る。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りに教師がコメントを返し、授業の理解度を深める。 ・現代社会の情報に関する課題について自ら調べるレポート課題を通じ、生徒が情報社会で適切に行動できる知識を身に着けるとともに、課題解決力を高める。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②レポートを通じて社会の課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②レポートを通じて社会の課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p>
<p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②レポートを通じて社会の課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用しながら，自身の考えや意見をまとめ具体的に表現すること。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>「既習事項を活用しながら自身の考えを深めること」や「題材によって興味関心の差があること」が課題として挙げられる。その授業改善策として，動画などの視覚教材を活用して具体的なイメージをもたせやすくしたり，体験的な活動の機会を増やしたりすることで，既習事項を活用して考えを深めようとしたり，それぞれの題材を実生活と結び付けて自分ごととして考えようとする生徒が増えたようである。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を使用した振り返りシートを活用し，既習事項の活用を意識付けながら，授業を振り返ることができるように教師がコメントを返している。 ・既習事項をもとに，自身の考えをまとめて表現する授業内課題や，グループワークなどを通して内容の理解を深められるように指導している。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①既習事項の活用を意識付ける声掛けと個に応じた適切な支援を行う。</p> <p>②授業内での体験的な活動をまとめ，記録課題などで自身の考えを表現する機会を増やす。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ワークシート，振り返り，授業内での課題や実習記録，年間2回の授業評価アンケート，年間3回の定期考査</p> <p>②ワークシート，振り返り，授業内での課題や実習記録，年間2回の授業評価アンケート，年間3回の定期考査</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>①</p> <p>②</p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 外国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和7年度村学力調査結果から次のことが挙げられる。

- ・「書くこと」に関する問題で、クラスの半数は全国平均を大きく上回るが、他の半数の生徒は全校平均を下回っている。
- ・クラス全体として、「さまざまな英文の読み取り」の正答率が低く、問題の出題形式から、概要を捉えたり、対話の流れを把握したりする力がまだ十分ではない。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「書くこと」に関する課題として村学力調査の結果から「同調査において、「書くこと」の領域の中でも、「英作文」の正答率が70.0%と、とりわけ低い。」と記載され、方策として、「生徒用タブレット内のデジタル教科書を活用した個別学習や、互いに問題を出し合うペア活動、家庭学習での反復練習を通して新出語句や文法事項の学習を行う。」と挙げている。検証結果として「小テストで正答できた語句でも、自分のことを表現する活動においてうまく活用できない場面も見られた。」という課題が見られている。
- ・「読むこと」に関する記載なし。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・「書くこと」の活動の際に、分からない単語や表現方法が出てきた際には、調べる手立てを伝え、調べたり活用したりする時間を設ける。
- ・「読むこと」に関する活動の際には、おおまかに内容を捉えたり、細かく情報を整理したりする様々な読み方の活動を行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①教科書の各ユニット末についている表現活動を実践し、学んだことを活用して書く活動を設ける。
- ②読む活動の前に、読んだ後にどのような活動をするかを伝え、適切な読み方が判断できるよう指導する。

<検証方法>

- ①, ②ノート, ワークシートの回収

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿